

## コガネムシが昆虫全体の代表になるか？

最近、偶然の機会に、ハチ類に関する論文のなかで、だれにもよく知られている Hymenoptera (ハチ目あるいは膜翅目), Symphyta (ハバチ亜目あるいは広腰亜目), Apocrita (ハチ亜目あるいは細腰亜目) などの名称が消えて、それぞれ Vespida, Siricina, Vespina という名で置き換えられていることに気がついた。この驚くべき改変を行なったのはいったいなに者だろうか、とその由来を追跡した結果、置換名に関する提案が発表されたのは 1977 年で、その提案者は、ニクバエ類などハエ目昆虫の大家であり、化石種の研究にも大きい足跡を残した B. B. ROHDENDORF (1904-1977) であることがわかった。しかも ROHDENDORF の提案には、動物全部の上位分類名を統一する見本として、全昆虫類の目以上の分類群に対する統一名の一覧表がつけられていた。

提案がなされてからすでに 10 年以上の歳月を経過し、いささか旧聞に属する嫌いはあるが、ROHDENDORF の論文の掲載されたのが、われわれの目には触れにくい古生物学の専門誌であったことと、昨年 (1988 年) になってその方式に従う研究者が出てきたという事情とを考慮して、甲虫類に焦点をしばった論旨をここに紹介しておきたい。

ROHDENDORF の論文の主旨は、現行の国際動物命名規約の適用を受けない下目以上の分類単位についても、科や属の場合と同じように、基準属の名称に基づく分類名を与えて、全体を統一しようという点にある。そこで、下目、亜目、目、上目、群、下綱、亜綱、綱、上綱、亜門、門、上門を、それぞれ -omorpha, -ina, -ida, -idea, -iformes, -ones, -ona, -oda, -odea, -ozoina, -ozoa, -ozoidea の語尾で統一した名称にしてはどうか、という提案がなされている。また、なにを基準属に決めるかという問題については、科群の命名に関する規約に倣い、語尾を修正することによって適格となりうるもっとも古い名称に、先取権を与えようとしている。

この意見を甲虫類に当てはめると次のようになる (括弧内は現在もっとも広く用いられている名称)。

昆虫綱 *Scarabaeoda* (=Insecta), 有翅昆虫亜綱 *Scarabaeona* (=Pterygota), 新翅下綱 [の一部] *Scarabaeones* (=Neoptera), 貧新翅群 *Scarabaeiformes* (=Oligoneoptera), 甲虫上目 *Scarabaeidea* (=Coleopteroidea), コウチュウ目 *Scarabaeida* (=Coleoptera)。また、この提案には例示されていないが、コガネムシ科の属するカブトムシ亜目は、*Scarabaeina* (=Polyphaga) となるはずである。

このように、*Scarabaeus* に基づく上位分類名が昆虫綱自体にまで及ぶ理由は、科以上の適格名を初めて提唱したのが、オーストリアの昆虫学者 J. N. LAICHARTING であったかららしい。ROHDENDORF の提案は、一見、荒唐無稽のように思えるが、鳥類や魚類では、これと同じ考え方に基づく目名の統一がすでに実施され定着している。したがって、昆虫類についても、ROHDENDORF によって提唱された上位分類名の用いられる日がこないともかぎらない。その時には、昆虫全体を表わす名称が、コガネムシで代表されることになるわけである。

因みに、ROHDENDORF の論文は、統一名の一覧表を除く全文の英訳が、RASNITSYN (1982) によって国際動物命名委員会に紹介され、考慮を要請されている (提訴の手続きにはなっていない)。

なお、この紹介記事に関する文献は、下記のとおりである。

RASNITSYN, A. P., 1982. Proposal to regulate the names of taxa above the family group. *Bull. zool. Nom.*, 39: 200-207.

ROHDENDORF, B. B., 1977. The rationalization of names of higher taxa in zoology. *Paleont. Zh.*, 1977 (2): 14-22. (In Russian.)

(上野俊一)